

有料老人ホームの選び方

【相談内容】

将来は有料老人ホームに入ろうと考えていますが、どのようにして選べば良いでしょうか。また、どういうところに注意すれば良いのですか。

【相談処理内容】

有料老人ホーム（以下「ホーム」という。）は、利用者が増えたとはいえ、まだまだなじみが薄く、また、サービス機能が付いているため、マンション購入のように価格や外見だけで選ぶこともできません。今回は、ホームの選び方や留意事項などをご紹介します。

I ホーム選び方の流れ

- 1 ホームとはどういうところかを知る。
- 2 本人の希望・状態の確認
- 3 どのタイプのホームに入るかを検討
- 4 同じタイプのホームに関する情報を収集
- 5 同じタイプのホームの比較・検討
- 6 入居ホームの選定



II ホームの選び方（ポイント）

- 1 本人の希望、状態の確認

（希望の確認項目）

- ①入居の意思 ②ホームの場所・立地条件 ③個室か相部屋可か ④部屋の広さ・設備
⑤必要なサービス ⑥費用 ⑦その他

（状態確認項目）

- ①健康状態 ②要介護度 ③医療行為の必要度 ④支払い能力

- 2 どのタイプのホームに入るか

ホームには、「健康型」「住宅型」「介護付」の3つのタイプがあります。

（各ホームの特徴）

- ①「健康型」は、自立が入居要件で、部屋も広く、通常バス・トイレ付きだが、現在、県内には該当ホームがない。
- ②「住宅型」は、自立者も要介護者も入れるが、介護サービスは外部事業者との個別契約により受ける。
- ③「介護付」は、通常、部屋にバス・トイレはなく夫婦も同室ではないが、いつでも介護サービスが受けられる。

介護付ホームの比較検討

比較検討項目	チェックポイント	参 考	
費用	入居一時金	①金額はいくらか。 ②倒産に備え、一定額の保全措置がとられているか。 ③早期退去の場合、幾ら返還されるか。	・金額はさまざま ・一定額の保全措置が義務化、償却年数未滿は一部返還。
	月額利用料	①利用料総額は平均でどの位か。 ②長期不在の場合、食費はどうか。 ③光熱水費はいくらか、管理費に含むか。	・料金総額はほとんど20万円未滿 ・食費は、基本的に実食数 ・光熱水費の取り扱いが多様
	その他	①月額利用料の改定方法と改定時期は。 ②介護費関係は1カ月どのくらいか。	・料金を改定する場合、その根拠を明確にする必要がある。
サービス	介護	①介護職員数は何人か。 ②夜間対応はできるのか。 ③認知症への対応体制は。	・要介護者3人に対し職員1人以上が国の最低基準 ・夜間対応、認知症対応に関する基準はない。
	医療関係	①看護師は何人か。 ②医療協力機関の場所と診療科目は。 ③健康診断は年何回か。	・看護師数は国基準で規定 ・協力医療機関は、通常複数 ・基準で健康診断年2回以上
	その他	①規定の入浴回数は週何回か。 ②食事は個別メニューが可能か。 ③生活支援サービスの内容と料金	・サービス内容は、重要事項説明書に記載されている。 ・規定以上のサービスには追加料金が必要
経営の安定度	①前年度の決算状況はどうか。 ②空き室数は多いか少ないか。 ③職員の表情は明るいのか。	・決算書は専門家に検討してもらう方法もある。 ・空き室が多いのは、経営上好ましくない。	
その他	①家族を交えた運営懇談会は年何回か。 ②どういう場合に退去させられるのか。 ③レクリエーション・イベントの内容は。	・運営懇談会は国基準による。 ・退去要件は、料金滞納や他人への危害行為など。	

III アドバイス

1 時間をかけてゆっくり選ぶ

ホームの料金体系やサービス内容は複雑です。失敗しないためには、ホームのことを良く勉強し、最低でも3つ以上のホームを時間をかけて、比較・検討してから選べば良いでしょう。

2 疑問点はどこまで聞く

トラブルの多くは、思いこみや聞き漏らし・確認漏れによります。重要事項説明書や契約書などをよく読んで、わからない点や疑問点は納得するまで聞きましょう。

3 必ず見学・体験入居を

ホームの資料やホーム職員の説明だけで決めると、「話が違うじゃないか」ということになります。必ずいくつかのホームを見学し、体験入居してから決めましょう。